

秋でも花のスポットに

五ヶ瀬川右岸
コノハナロード

9/5 市民応援隊が観賞イベント

延岡

「コノハナロード」の呼び名で親しまれている延岡市野地町の五ヶ瀬川右岸堤防で24日、第1回彼岸花まつりが開かれ、関係者ら約100人が堤防を赤く染める彼岸花の観賞を楽しんだ。主催は、同所で植栽などを推進しているコノハナロード市民応援隊（松田庄司代表）。

同市民応援隊は、春に桜と菜の花が咲き誇るコノハナロードを秋でも色鮮やかなスポットにしよ

とあいさつ。顧問を務める谷平興一・延岡花物語実行委員長から香代子さんにねぎらいの花束が贈られた。今年彼岸花は例年より早く開花。香代子さんは「見頃のピークは過ぎ

たのでまた来年のお楽しみです。植栽した球根は1万5千個を超え、今後増やしていく予定。秋の風物詩として多くの方に見守っていただければ」と呼び掛けた。訪れた人たちは振る舞われたお茶やお菓子を味わいながら、赤い花々を通して過ぎゆく季節に思いをはせていた。

毎日、誰かしらが草花の世話や清掃をしています。あと数年もすればさらに景色の素晴らしい憩いの場になるでしょう」



五ヶ瀬川右岸堤防を赤く染める彼岸花



植栽に尽力した松田香代子さん（中央）に花束が贈られた

延岡市、岡田さんに感謝状 桐野利秋の刀を市に寄贈

延岡市は22日、西南戦争で政府軍と戦った薩軍の桐野利秋所有と伝わる刀を市に寄贈した同市北川町長井の岡田眞智子さん(81)に感謝状を贈った。

刀は脇差し一振で長さ約52・9センチ、反り約1・5センチ。同町俵野の西郷隆盛宿陣跡資料館で感謝状を手渡した読谷山洋司市長は「歴史を通じて大切なことを伝える大きな財産をいただいた。有効活用したい」。資料館管理人の児玉剛誠さん(75)は

「大きな目玉が一つ増えた」と感謝した。

西南戦争最後の激戦「和田越の戦い」に敗れた薩軍は、北川町長井に資料館に本陣を置いた。

秋は本陣に近い児玉初治邸(現・岡田さん宅)に

退き、児玉熊四郎邸(現・西郷隆盛の側近、桐野利

ショーケースに収められた刀を前に読谷山市長と懇談する岡田さん
(左) 22日、延岡市北川町俵野の西郷隆盛宿陣跡資料館



宿営。宿泊の札に刀を贈ったといわれている。岡田家は刀を守り、当時から自宅も代々守り続けている。NHK大河ドラマ「西郷どん」の放映などで関心が高まり、桐野の刀の有効活用を考えたという。岡田さんは「みなさんに見ていただくようになってよかった」と思っていると話した。